

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

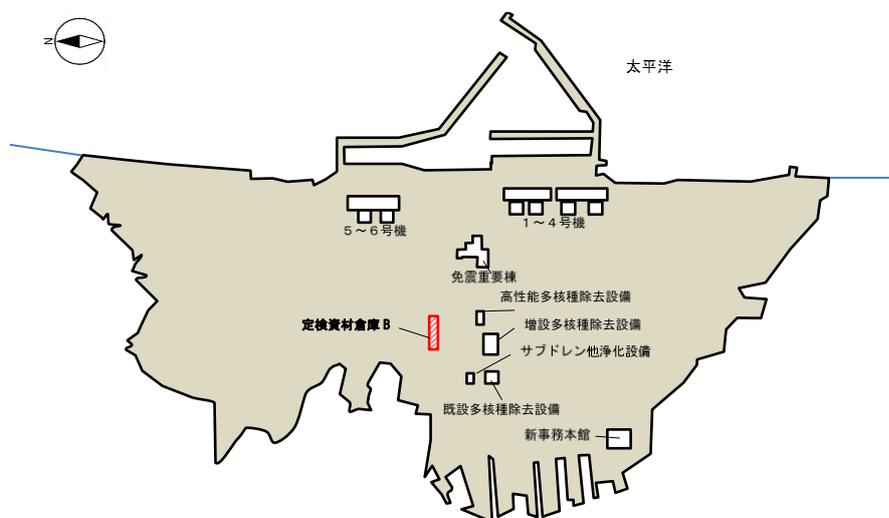
- 1 確認日  
令和6年7月23日（火）
- 2 確認箇所  
定検機材倉庫B（図1）
- 3 確認項目  
横置き型ブルータンクの解体・除染作業の状況確認

### 4 確認結果の概要

横置き型ブルータンク（以下「ブルータンク」という。）は、震災直後から増え続ける建屋内滞留水の移送先として使用されてきたが、敷地利用の観点から縦型溶接タンクへの移行が進んだことから、現在当該タンクは、利用されず福島第一原子力発電所構内に仮置きされている。

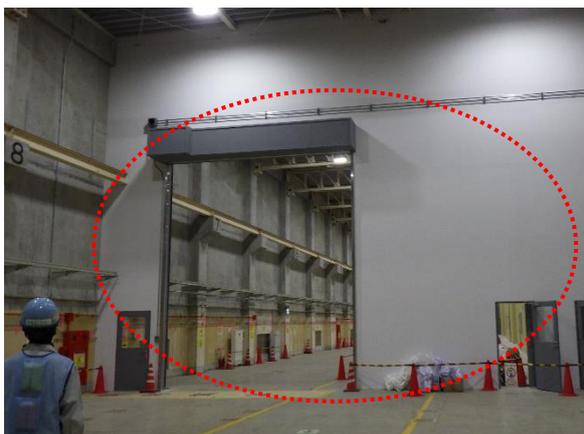
利用から10年以上経過し外面に塗装剥がれが見られるため、東京電力は、定検機材倉庫B内において当該タンクの解体、除染設備を設置して全367基の解体及び除染を今年度から実施する計画としたため、前回に引き続き、その状況について確認した。（前回確認：令和6年6月21日）

- ・定検機材倉庫Bの東西両側とも、搬入・搬出用ブースの仕切りが設けられ、解体・除染作業用資機材設置に向けた準備が進められていた。  
また、前回確認では、未設置であった各ブース間の隔離型のスペース通路が設置されていた。（写真1～2）
- ・東京電力は、9月中までにブルータンクの解体、除染用各設備の設置作業を整え、10月からは実際にブルータンクの解体、除染に向け、切断・タンク内部のFRP<sup>(※)</sup>剥離作業等を開始する計画としている。



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図

(※) FRP・・・ ガラス繊維など弾性率の高い材料と複合させたプラスチック素材のこと。強化材としてガラス繊維を用いた GFRP や炭素繊維を用いた CFRP もあり安価・軽量で耐久性がよく、成型、穴あけ等の加工も比較的容易なため小型船舶の船体や、自動車・鉄道車両の内外装、ユニットバスや浄化槽等の住宅設備機器などで広く利用されている。こうした素材をタンク内部に塗布することで、耐水性・機密性を高めたもの。



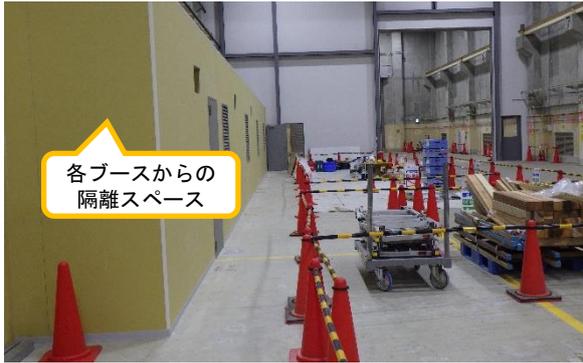
(写真 1-1)  
定検機材倉庫B 西側の状況  
(搬入ブース：仕切り壁を設置済)



(写真 1-2)  
定検機材倉庫B 中央部の状況  
(切断及び FRP 剥離ブース)  
(西側から撮影：各ブース南側には、  
東西方向に沿って搬入側から搬出側  
への隔離スペースが設けられてい



(写真 1-3)  
定検機材倉庫B 東側の状況  
(搬出ブース：仕切り壁を設置済)  
搬出口手前には、電源盤など  
切断、除染作業用の資機材が  
置かれていた。)



(写真 2-1)  
定検機材倉庫B 中央部の状況  
(切断、除染作業用の資機材が運び込まれ、区画管理されている様子)



(写真 2-2)  
定検機材倉庫B 中央部の状況  
(隔離スペース内の管理状況)



<参考：前回確認時①>  
(写真 3-1)  
搬出ブースにおける足場組立の様子)



<参考：前回確認時②>  
(写真 3-2)  
搬入・搬出ブースとも仕切り壁なく、東西に渡る隔離スペースも未設置)

## 5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。